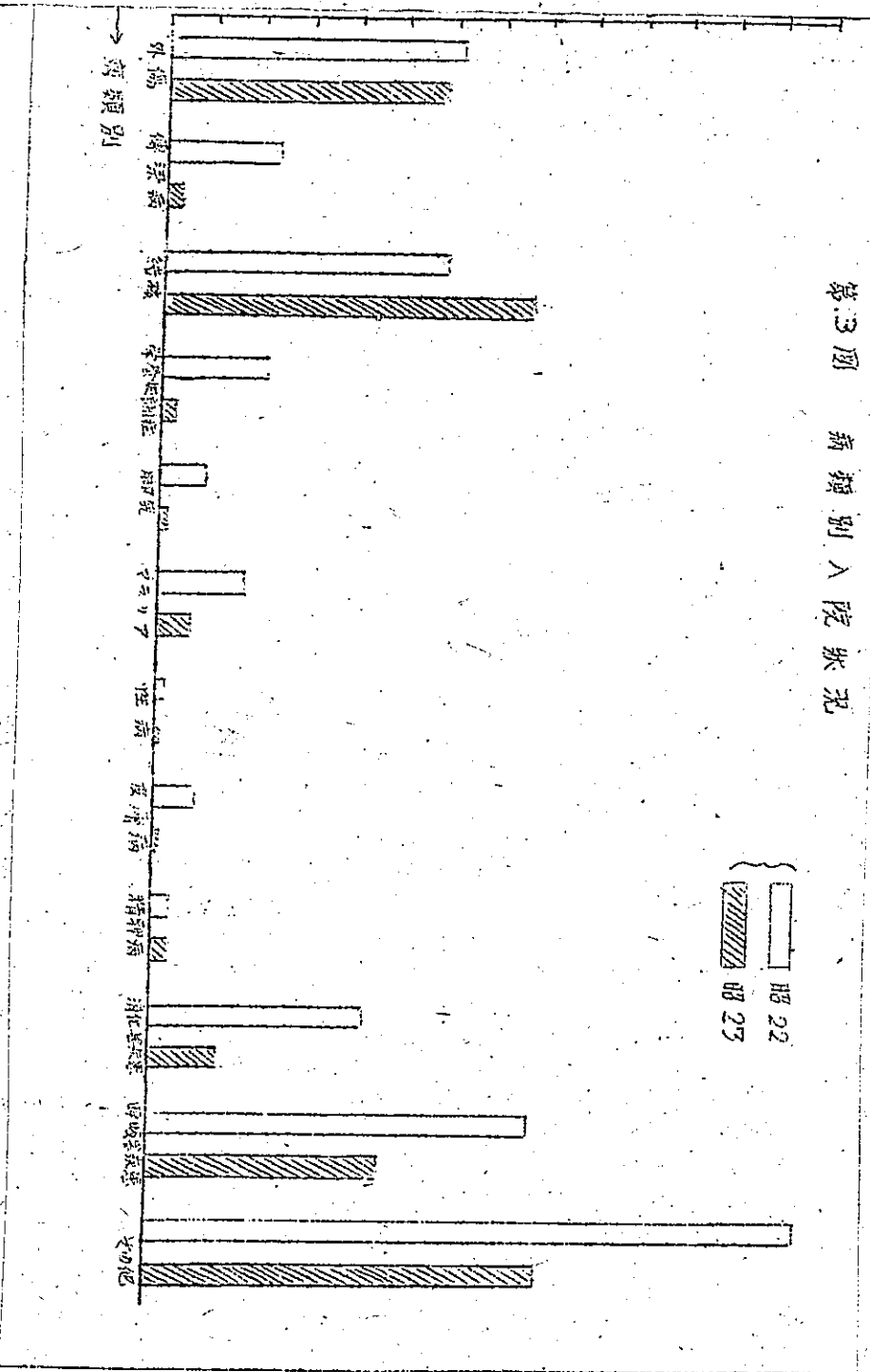


第3圖 病類別入院狀況

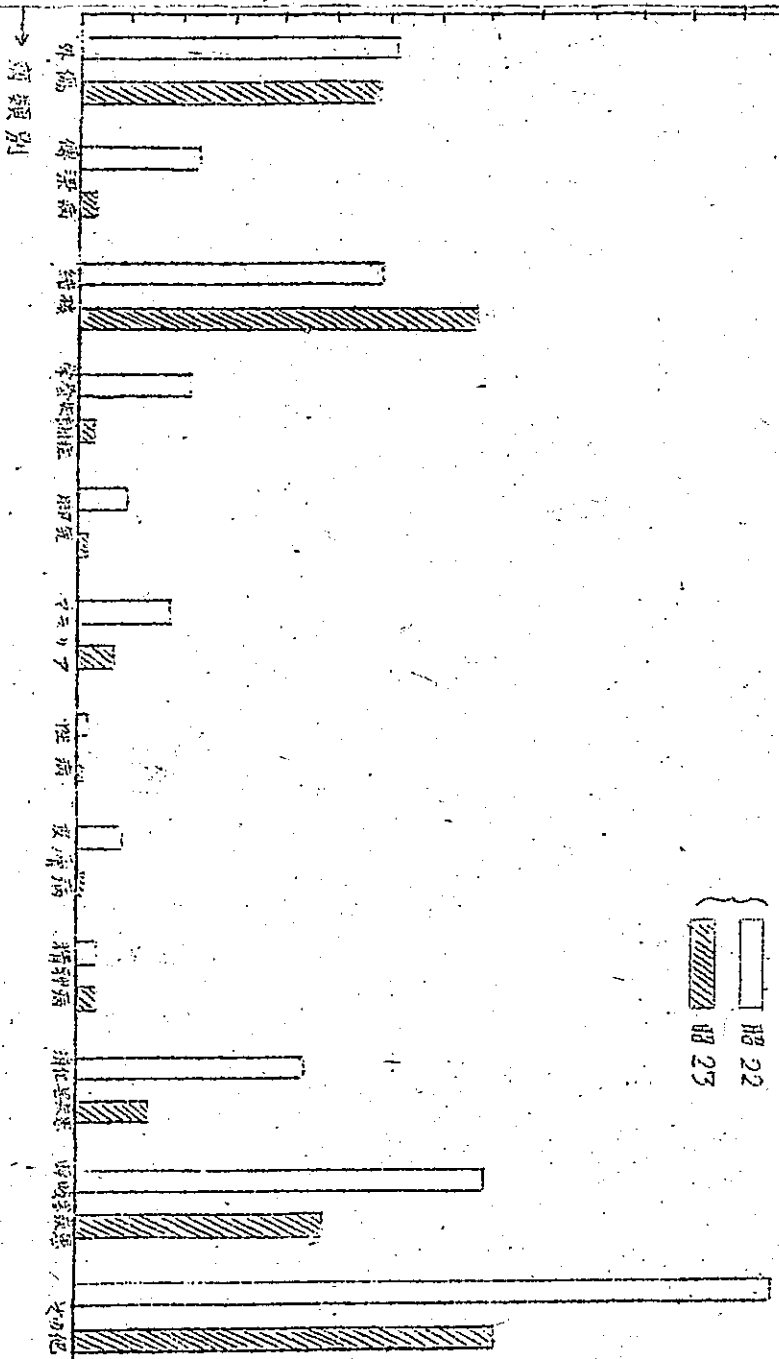


(23)

第2表 地 域 別 入 院 狀 況 (昭和25年4月—12月)

病類別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		不明	計		
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%						
傷	290	268	179	175	32	145	76	197	145	186	44	156	79	121	50	266	21	99	57	229	1	50.0	15	12.0	969	57
病	27	16	4	0.9	0	0	10	26	7	0.9	1	0.3	9	15	1	0.3	0	0	6	37	0	0	7	56	68	0.4
疾	504	219	183	179	68	309	102	265	195	251	106	375	179	276	70	249	46	216	54	209	1	50.0	29	23.2	1317	77
症	9	0.6	127	125	1	0.4	1	0.2	11	1.4	5	1.0	4	0.5	2	0.7	2	0.9	2	1.2	0	0	1	0.8	45	0.2
疾	19	1.3	7	0.6	0	0	9	2.5	21	2.7	5	1.0	4	0.5	4	1.4	6	2.8	8	4.9	0	0	2	1.6	124	0.7
病	11	0.7	5	0.2	0	0	0	0	7	0.9	1	0.3	7	1.0	1	0.5	1	0.4	1	0.6	0	0	1	0.8	1.53	0.1
病	8	0.5	3	0.7	2	0.9	1	0.2	1	0.1	3	1.0	3	0.4	0	0	1	0.4	1	0.6	0	0	0	0	28	0.1
病	52	2.2	8	0.7	2	0.9	1	0.2	6	0.7	1	0.5	5	0.4	1	0.5	5	1.4	3	1.8	0	0	10	8.0	79	0.4
病	51	3.6	61	5.9	13	5.9	22	5.7	38	4.8	7	2.4	25	3.8	11	3.9	4	4.2	6	3.7	0	0	6	4.8	249	1.4
病	190	13.6	182	17.9	23	10.4	40	10.4	117	15.0	69	24.4	73	12.0	43	15.5	21	9.9	29	17.9	6	0	16	12.8	808	4.7
症	416	5.20	369	2.51	75	30.5	117	30.9	215	28.2	44	16.2	211	33.3	90	23.7	67	48.1	68	19.4	0	0	57	22.6	1729	8.1
症	1392	1022	220	584	776	282	648	281	212	162	2	125	5506	296												
症	29610	45699	10678	16637	21637	5553	20704	6655	17696	6350	2	162	159586	296												
症	471001	251007	201001	021003	211009	501029	311012	421024	271018	251019	031037	—	291004													

第3圖 病類別入院患者



(23)

第2圖 地域別入院患者

病類別	I		II		III		IV		V		VI	
	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%	患者数	%
傷寒	290	20.8	177	17.5	32	14.5	76	19.7	145	18.6	44	15.6
傷風	23	1.6	4	0.5	0	0	10	2.6	7	0.9	1	0.3
肺炎	304	21.9	183	17.9	68	30.9	102	26.5	195	25.1	106	37.5
肺膿瘍	19	1.3	9	0.8	4	1.3	5	1.5	15	1.6	0	0
肺腫瘍	3	0.6	12.7	1.25	1	0.4	1	0.2	11	1.4	5	1.9
肺水腫	10	0.7	7	0.6	0	0	9	2.5	21	2.7	5	1.9
肺出血	11	0.7	5	0.2	0	0	0	0	7	0.9	1	0.3
肺萎縮	9	0.5	8	0.7	2	0.9	1	0.2	1	0.1	3	1.0
肺壞疽	52	2.2	8	0.7	2	0.9	1	0.2	6	0.7	1	0.3
その他	51	3.6	61	5.9	13	5.9	22	5.7	38	4.8	7	2.4
合計	140	10.4	182	17.8	23	10.4	40	10.4	117	15.0	69	24.4
他	416	30.0	359	25.1	75	30.5	117	30.9	215	28.2	44	16.2
	1392	10.22	930	9.84	776	7.76	282	2.82				
	29610	45.699	10678	16.637	21637	21.637	5553	5.553	26	0.26		
	4.7±0.1	23±0.07	20±0.01	0.2±0.03	2.1±0.09	50±0.29	3.1					

(22)

引揚者入院状況 (引揚者総数に対する%)

引揚者	病名	蹴傷	外傷	傳染病	結核	肺炎	脚氣	マラリア	性病	その他	計
ソ連引揚者(昭22)		0.2	6.2	2.4	5.9	23	0.5	1.9	0.2	27.3	47.9
他地域引揚者(昭22)		1.5	4.1	1.4	2.3	0.7	0.4	0.9	0.1	14.6	26.4

のような不良な状況にあるのであるが第3図にみる如く昭和23年は一般に着減している。ところが外傷は着差なく結核による入院率はむしろより増大している。ウラダオ中央病院の入院患者種類の推移は入ソより翌々1年春まで肺炎と赤痢多く、3〜4月に壊血病が増加し、同年夏季にはマラリア、冬季には肺炎多く、22年夏季には壊血病はほとんどなく外傷が大部分を占めていたといふ、ホルモリ地区スタルト病院では22年8月までに約500名の死亡者を出しその70%は肺炎と下痢、20%は骨折その他の外傷、10%は結核であったといふ、又ムリー地区3079病院において20年12月より21年5月まで1日平均1.5名の死亡者あり、多くは外傷と結核であったといふ、イルフーツ地区1218病院の入院患者が昭和22年までは肺炎、結核、外傷が多かったといふ事實は初冬の肺炎、肺炎の多発の後食糧事情の好転によつて肺炎、脚氣等は減つたが抑留の長期にわたるにつれて居住環境の不良な状況に伴い結核が増加し、伐採、建築が激化等の危険を伴う労働において、殊に冬季における防寒の不充分で寒い寒冷の中での不自由な労働にもとづく骨折その他の外傷の増加しつゝある現地の状況がうかがわれるのである。

引揚者は一般に抵抗力の如く病状を押しつけて滞留する者多く、殊に結核の如きは病状を欠くものも多いため、この結核の増加は保健衛生の低下した状況にある国内の結核対策上注目すべき事項といえよう。

一方傳染病が入ソ初冬に多発し、多発の11收容所における25,330名中3,065名(12.1±0.21%)が死亡した。遠藤の調べによれば第25表の如く赤痢、発疹チフス、チフスが最も多く特殊な傳染病として1937〜1939年にソ連のSMORODIMTSEFF等<sup>(15)</sup>によつて確定されたロシア森林脳炎又は春夏脳炎が第26表の示す如くに沿海州の森

第24表 傳染病発生ならびに死亡状況 (遠藤)

年 度	病 名	法 定 傳 染 病							特 殊 傳 染 病				
		赤痢	発疹チフス	チフス	肺炎	コレラ	猩紅熱	傷寒	森林脳炎	マラリア	パルチフ	コレラ	
21	発生数	7645	18970	1125	10	31	—	32	3	320	800	920	2845
	死亡数	840	6199	127	5	3	—	4	—	16	252	—	—
22	発生数	2527	239	2221	4	2	1	—	—	580	—	—	358.7
	死亡数	115	70	199	—	2	—	—	—	60	—	—	—
23	発生数	11017	92	454	5	1	1	—	—	200	—	—	314.9
	死亡数	129	2	17	2	—	—	—	—	67	—	—	—

第26表 ロシア森林脳炎発生状況

年度(昭和)	主な発生地	收容人員	罹病数	罹病率	死亡数	死亡率
21	スライエフカ ウオロシロフ	2,000	211	10.5±0.6	5	2.3±1.0
22	クイブエツカ ムリンヒルロフ	12,830	364	2.0±0.63	38	10.4±1.6
23	ウオロシロフ スライエフカ	3,165	164	5.1±0.4	50	30.1±3.5

林において伐採に従事した人々の間に主として4〜10月に発生し、その他回帰熱(I、II、III、IV地域)、パ、タチ熱(柳地域)、マラリア(ほとんど全地域にわたる)がみられた。発疹チフスの発生は主として4月で遠藤の調査成績に基づき計算して、第27表に示したように第28表

年 度(昭和)	主 発 生 地 域	收容人員	罹病数	罹病率	死亡数	死亡率
21	26	36,930	13,630	36.9±0.2	4,900	35.9±0.1
22	4	5,000	120	2.4±0.6	65	54.1±4.5
23	3	2,050	80	3.9±0.1	2	2.5±0.4

生収率、罹病率、死亡率が柳田ツチノハチの如く行われているのは衛生設備、給与の改善と体力の向上を反映するものと考えられる。その他黄痘(ブラゴゴエシチエンスク、スーチヤン等)、耳下腺炎(エラブカ)の多発したところがある。甚しい例を示せばブラゴゴエシチエンスク18分所では1,000名中900名が発疹チフスに罹患し、中550名(61.1%)が死亡し、カダラ第3收容所では600

名のうち250名(41.6%)が、腸チフス及び大腸炎のため死亡している。

以上のように諸状況は地域・地区によって相違するのみでなく第28表に示す如く同一地区でも収容所によってかなり差異がある。方ライチヒンスクの如く米、パンの他副食も、7種あり夜服も髪、剃りに変換せられ、入浴も1週間3回でソベリアーとまで呼ばれたところもあった。

第 28 表 ウオロシロフ地区各収容所における昭和22年6月頃までの諸状況

収容所	入所当時の収容人数	作業概況(作業時間)	衛生状況	給 手	居住その他
1	760	建、土木、工(8)	病死70、入浴所内廻1回	普通	1棟、1人1平方米 電灯あり洗面に用ひなし
2	350	道補、農場(8-10)	患10-50 入浴所外2km シヤワー	。	1人 1平方米 灯 浴室10W
3	400	架橋(9)	12-3 21.9-10 47人、赤痢続出	不良	電灯なし
7	528	炭坑(8)	滿州より行軍入所のため患者続出 20.10-21.1 死者14名	や、不良	1人 1平方米
8	930	建、煉瓦(5)	20.11 後診 70 死者 67(炭坑)	普通	1人 半坪
9 (リボフツエ)	1000	炭、運、農 道補、鉄道(8)	入所当時 死者23(炭坑) 計死者160 入院500		
10(リボフツエ)	1600	炭、運、道、炭、石割	死者 190(炭坑)	普通、21.30頃、22良	
11(ウオロシロフ市内)		木工、石割、製油	死者 0	他に比しや、良好	
12(ノビニル 病院収容者)		石炭作業(8-原則は3日 10-12少ながらず)	死者 1(外傷)		
ケヤウ司令部 収容所	100	薪炭採集、農、雑作 休日なし	患者 平均 4 (風邪の程度)	將校給手にて良好 (将校は全て2人分)	1人 0.6平方米
病 院			20.11中入院900(炭坑炭病 47人等) 20.12-21.3 死者350	きわめて悪し	
14	800	患者居るため軽作業、 清掃、荷役(7)		概ね良好なり	
マンナカ第2	275	積込、製材、農、收、 作、白粉車工(8)	20.12-21.2 死者 30(炭坑、熱熱)	普通	
14(ノリイカ 南方8km)	500	伐、林種(8-9) 休日 1週1回	死者 15、事故 8	21.6後 ルマ給食	
15 大隊	1200	伐、運(10-15 きわめて過勞)	平均人員の1/3患者有炭病 3中隊250中50 20.9-21.8間1死	交通の硬悪く、不定 不良	半 洞窟

8. その他

(1) 元將校

元將校は主として將官収容所と將校収容所に、他の一部は一般の収容所に他の元兵員と共に抑留され、金銭給与、食糧は規程により元兵員とは區別せられ、作業は元兵員が「収容所長の指令に従いあらゆる労働に服する」義務が課せられているに反し、元將校は「自己の希望又は選抜により労働を行う」権利が与えられているが、実情としては

押し付けられていた。しかし労働は過剰なところもあつたが(米等)、一般に將校収容所ではもちろん他の収容所での指揮者となつた者が多く一般に比し軽かつた。この点も元兵員に比し一般により良好な状況におかれたと

状況

手は普通食と特別食あり病状によりその上下があつた。衛生肉保者がこれに当たつたのであるが、一般に設備不足の状況にあつたが次第に改善せられたところが多きわめて悪く体重が1週間で3-4kgの減少を示し病院の如きもあつたが、テルマ、ウラゴオストツク等の病院の人にも一般に診療、給与等好意を以て處したところが多きビタヤ病院では倉庫より調理にいたるまで全部ソ連のため横流しがあり、定量の1/2-3/3で病状の恢復が悪不正行為を摘発、22年4月以降不正行為が是正され、が一任せられ煎煙にして栄養3,000 cal、普通患者0.0 cal、が給せられるようになったという1例もある。

徴収所(徴治収容所)

振、思想運動に対する不参加等の個人的ないしは指揮を追究せられ禁食絶食とか營倉に投ぜられる他に徴治した。

地区第1-1分所の徴治収容所ではかえつて労働も軽減したが、スーチヤン附近の強制労働収容所では昭和22

石のうち250名(41.6%)が、腸チフス及び大腸炎のため死亡している。

以上のように諸状況は地域・地区によって相違するのみでなく第28表に示す如く同一地区でも収容所によってかなり差異がある。一方ライチヒンスクの如く米、パンの他副食も、ク種あり波振も餌、剥々に支給せられ、入浴も1週間3回でシベリア人と云々呼ばれていたところもあった。

第 28 表 ヲオロシロフ地区各収容所における状況

収容所	入所当時の収容人数	作業概況(作業時間)	
1	760	運、土木、工(8)	
2	350	道補、農場(8~10)	
3	400	張橋(9)	
7	528	炭坑(8)	
8	930	運、煉瓦(8)	
9(リボアツエ)	1000	炭、運、道、築、石割	
10(リボアツエ)	1600	炭、運、道、築、石割	
11(ウオロシロフ市内)		木工、石割、製油	
12(ノビニル病院収容者)		石炭作業(8・原則1日3回・10~12少なかからす)	
ウオロシロフ司令部収容所	100	薪の採集、農、雑務、休日なし	
病 院			
14	800	患者を収めるため軽作業、道補、荷役(7)	
マンナカ隊2	275	積込、製材、農、牧、伐、自動車工(8)	
14(マンナカ隊前方8km)	500	伐、採種(8~9)休日1週1回	
15 大隊	1200	伐、運(10~15ミカドで過労)	

此表は、ウオロシロフ地区各収容所における状況を示している。収容所番号は、左から右へ順に1から15まで記載されている。作業内容は、運搬、土木、工、道補、農場、張橋、炭坑、煉瓦、炭、運、道、築、石割、木工、石割、製油、石炭作業、薪の採集、農、雑務、休日なし、積込、製材、農、牧、伐、自動車工、伐、採種、休日1週1回、伐、運(10~15ミカドで過労)など多岐にわたる。収容人数は、100から1600まで異なり、作業時間は8時間から10時間程度である。

8. その他

(1) 元将校

元将校は主として将官収容所と将校収容所に、他の一部は一般の収容所に他の元兵員と共に抑留され、金銭給与、食糧は規程により元兵員とは区別せられ、作業は元兵員が「収容所長の指令に従いあらゆる労働に服する」義務が課せられているに反し、元将校は「自己の希望又は選抜により労働を行う」権利が与えられているが、実情としてはやはり労働が強制されていた。しかし労働は過剰なところもあつたが(エラブカの伐採等)、一般に将校収容所ではもちろん他の収容所でも元将校は作業の指揮者となつた者が多く一般に比し軽かつた。このようにして元将校は元兵員に比し一般により良好な状況におかれたといえるようである。

(2) 病院の状況

入院患者の給与は普通食と特別食あり病状によりその上下があつた。医療は日ソ両方の衛生関係者がこれに当たつたのであるが、一般に設備の不良、薬品の欠乏の状況にあつたが次第に改善せられたところが多かつた。食事がきつめて悪く体重が1週間で3~4kgの減少を示したバトロフスク病院の如きもあつたが、テルマ、ウラゴオストク等の病院の如く勤勞のソ連人も一般に診療、給与等好意を以て處したところが多いようである。ザビタマ病院では倉庫より調理にいたるまで全部ソ連員が行つていたため横流しがあり、定量の1/2~3/5で病状の恢復が悪く政治部にその不正行為を摘発、22年4月以降不正行為が是正され、日本人側に食糧が一任せられ炊飯にして栄養3,000 cal、普通患者2,800~3,000 cal、が給せられるようになったという1例もある。

(3) 強制労働収容所(徴治収容所)

作業能率の不振、思想運動に対する不参加等の個人的ないしは指揮者としての責任を追及せられ減食絶食とか苦倉に投せられる他に徴治収容所に送られた。バトロフスク地区第1/分所の徴治収容所ではかえつて労働も軽減され、22年4月あつたが、スーチマン附近の強制労働収容所では昭和22

第 1 級

年6月頃主食としてパン200gの給与で16時間労働に服せしめられたという実例がもたらされている。又独立労働大隊は一般に不良状況にあった。

(4) 保健大隊

遊説者とか比較的健康的な隊員を集めたハムロフスク地区第2大隊の如きで一般の収容所よりも作業が軽く給与も良好な状況にあった。

總括および考按

以上を總括するに抑留地の気候、風土、居住環境、被服、食糧、労働等なるびにこれを反映する抑留者の健康状態は時期と所によって異なるを異にしている。

すなわち入ソ初冬には悲惨な状況にあったが、その後は漸次よくなる。昭和27年10月頃に作業能率による給与制となってから再び悪化の傾向があったが、同28年2月末の同制度の撤廃、給与状況の向上と共に多少改善されて来た。そして後述のビタミン欠乏症の発生状況より思っても年間においては5~8月が最も不良で、10~11月に良好な状況にあるものと考えられる。

一方地域によるはもちろん、同一地区でも収容所によって状況が異なるにしているが、これは収容所相互の間の連絡に乏しく浮寄の取扱態様や給与規程はあつても、労働、給与等はほとんど収容所長の主観的立場から実施せられたものであつて、諸状況は交通の便、不便による連絡の隔る他、中央との連絡、あるいは中央よりの監督の行方といたるところ程よく、辺陲な地域程不良であつたということがソ連監察官とか政治部員の種類のある度に又はその前後のみに給与が改善せられた事案や、入ソ初冬の死亡率、引揚時の入院状況等よりみて政略、コーカサス等が良好で外蒙、中部シベリアが不良であり、又都會ではよいが伐採、炭坑作業等において不良な事案から考えられる。

入ソ初冬にさわめて不良な状況にあったのは、諸種の条件が未だ整備されぬまゝに冬を迎え、居住環境の不備による寒冷の影響や食糧の

抑留地の諸状況の推移

不足の一方作業量の増大に基くエネルギー需給失調、不慣れな環境に対する不馴化、傳染病多発の事案からも容易に推察せられる衛生状態の不良等に基くものであり、その後次第によくなつたのは正路が露洲における寒気に対する人体の適應性について検討し現地の酷寒に慣れた者は体温の維持に必要だけの適量の体熱の発生を営むも、いまだ酷寒に慣れず寒冷を感ずること酷しい者は必要以上に骨髄筋の緊張および收縮を強めて過量の体熱発生を行い、従つて適量の食物の摂取を必要とするの不利があると指摘していることから考えられるように、寒冷を始め諸種の環境条件に対する馴化、食糧、環境、衛生状況の改善、作業能率の増進、作業条件その他収容所当局との交渉に要領を得たことや虚弱者の淘汰による脱落等によるものであると考えられる。又これは世界的食糧事情好転の影響を幾分反映しているのではあるまいか。かくて引揚が進捗して、抑留者の数が少くなるにしたがひ諸条件の更に改善せらるべきは想像に違くない。これは一方から見れば入ソ当時は抑留者、ソ連当局互にその性格心算等を解せず、感情も硬化したまゝでいたために、抑留者に対する当局の態度も勢い苛酷であつたものが、抑留期間の長びくに従い相互の理解と信頼が次第に深まり労働成果の向上を叫ぶと共に、他方では浮寄の生活様式や生活内容の改善に注意を拂うようになり、衛生、娯楽施設の充実等長期抑留生活の基礎が着々と整備せられていったものとみられる。

摘 要

ソ連抑留地における諸状況の推移を検討して次の結果を得た。

- (1) 抑留はソ連全土にわたつて行われているがシベリアがその大半を占め、抑留者は不馴れな気候、風土、その他特殊な環境下において浮寄としての特異な生活を送つて来た。
- (2) 時期、地域によるはもちろん収容所によつても状況を異にするが、衣、食、住、労働等の諸条件が抑留者の健康状態に反映し、入ソより翌年5月前後の越冬後まで最も悲惨な状況にあり多くの犠牲者を

出したが、その後は漸次よくなり、昭和21年7月頃作業能率による給与制の実施に伴い再び悪化の傾向を示したが、同22年7月以後は同制度の徹底、その他の条件の改善と共にとみに向上して来た。

(3) 一般に諸条件は収容所係員の主観によつて左右せられ、中央又は都会近く又は交通の便なところ程よく、末梢辺陲の地域程不良の傾向があり、欧露、コーカサスはよく、外蒙、中部シベリア等は不良であつた。

(4) 入ソ初冬に不良な理由は入ソ後居住その他越冬態勢の整わぬやわめて不如意な環境と食糧事情の下に過激な労作に服した、ゆゑであり、その後向上したのは、環境条件の改良の他に環境ならびに労働条件に対する馴化、虚弱者の脱隊による抑留者の自然淘汰によるものと考えられる。

(5) 諸状況を摘記すれば次のようである。

(i) 入ソ初冬の死因は栄養失調、肺炎、結核、傳染病が主でその後においても一般に結核、外傷患者が多い。

(ii) 食糧には規定量が規定されているが、多くは質、量共に規準以下で総熱量の不足の他に、脂肪、動物性蛋白質、V. A. およびCの不足等量的に貧弱な場合多く、作業能率による給与制の抑留者の健康状態におよぼした影響は大い。

(iii) 労働は工場、農場の他伐採、鉄道工事、道路構築、採鉱等として重労働で、作業ノルマや体格等位の判定は主観的不合理なものであつた。

(iv) 居住は地上家屋の他半洞窟式多く、一般に衛生的に不備な事が多かった。

(v) 元將校は他に比し多少慰まれた状況にあつた。

文 献

文 献

- 1) 引揚援護院検疫所：引揚検疫史 1, 2, 3, 昭20, 23
- 2) 二葉：シベリアに於ける日本俘虜の実情 一洋社 東京 昭22
- 3) 二葉：シベリア捕虜の手記 大元社 東京 昭22
- 4) 富沢：患者の解剖するソ連 銀杏書房 東京 昭23
- 5) 樋口：ウラルを越えて 乾元社 東京 昭24
- 6) 香田：ソ連見聞記 雄雞社 東京 昭24
- 7) 山田：日本週報 昭24 (5.15)(6.1)
- 8) 地理講座 改訂版 東京 昭8
- 9) 古屋：公衆衛生学 第1輯 日本臨牀社 東京 昭23
- 10) 国民栄養委員会：食品栄養標準 第一出版社 東京 昭22
- 11) 細井：東洋化学誌 19: 197
- 12) 臨牀内科小児科 2(3): 130による
- 13) 齋藤と陸地交際：調査資料
- 14) 遺囑：未発表
- 15) 北岡、三浦：公衆衛生学雑誌 5(4): 27 による
- 16) 正路：日本生理学評論 2(2): 59

8月

その他

警察官下士官等被服その他日用品類の供給に際し、従来の入札方式より、入札の要を廃止し、必要に応じて、入札を要せずに入札せしむるため、差額に差額を付す。

9月

ルマを制定せしむるに際し、従来より加増せしむるに、全般の増減は良好なら、その増減は204分所の如く、即ち増減より減少することしばしばあり。

10月

以下同様

11月

12月

1月

2月

3月

4月

5月

6月

7月

8月





森林地帯・工場地帯・農場地帯の別 (森林地帯)

野菜系	副都府県(他)状況 受診者の数	栄養失調の発生状況				瘰癧病予防の状況				瘰癧病の発生状況			夜盲症の発生状況		脚質の発生 (時・報)	骨髄、肺、腎臓、心臓等の 発生及び死亡の状況	その他	
		時期	患者の数	死者の数	その他	時期	患者の数	死者の数	その他	時期(月・日)	患者の数	死者の数	その他	時期				患者の数
野菜類 に代用 野菜類 に代用 野菜類 に代用	体力低下に 受診者1日10 ~20名程度	昭和21 年2月 頃より 現れる	入院する の欠~40名 程度と思わ れ、詳細不明	収容所で 死亡するもの は2名、その 他ソフカワ ニ病棟入院 者多数あり 消息不明	なし	なし	なし	なし	合計2カ 月位	なし	なし	収容所内 にてなし	昭和20年 3月頃	2名程度	20~30名 程度	数種の発生若干 もその他につき 不明	栄養低下に 関する報告は 少なく、他府 県に比べて 少ない。入 院後の経過 は、比較的 よく、かつ 人と交換し て、栄養の 改善に努 むる。	
野菜類 に代用	当分所は前分所の 強弱のみを めぐるために前分 所に比べて比較的 強弱の差が 少なく、約200名 と強者と交換	—	入院者 2~3名	不明	なし	なし	なし	なし	合計3カ 月位	なし	なし	全と	不明	2~3名	5~6名 位程度不 明	収容所において死 せるもの及び 入院せるものに ついては詳細不明 なり	ルマを測定する 作業が、より加 わるため、全 般的に、20 4分所の如く、 弱さより減少 することしばしばあり	
野菜類 に代用	詳細不明 20 名位と思 うこと 胃腸病	—	入院者 3~4名 位と思 うこと 詳細不明	全と	なし	強制的に 飲用す	なし	なし	合計1カ 月位	5月初旬 頃より	ビタミン 欠乏症と 稱するもの 若干あり らる	全と	全と	不明	軽度合計15~ 25名程度不 十分と思われ る	赤痢患者2名発生 その後発生せず (2名重傷に入院、 入院後の状況不明 なり)	以下同様	
150 150 150	体力低下に 栄養不足者約300 名はソフカワの 命により保健収容 所に送る	1月頃 より逐 次発生	入院者 3~10名 位と思 うこと 詳細不明 昭和20-21	全と	なし	全と	なし	なし	合計2カ 月位	1月初旬 頃より	ビタミン 欠乏症と 稱するもの 50~ 60名位	全と	全と	2~3名	全と	黄疽5~6名程度 その他の傳染病 死亡者不明		
150 の質はきめ を指示	作業人員の約 半数は体力等 低下者 (体力弱者)	—	なし	なし	なし	全と	野菜を採 取し野菜 として交 換する	なし	約2カ 月	なし	なし	なし	全と	2名	軽度合計 10名	黄疽2名、その他 なし、死亡者不明 なり		
30g 75g 良好なり	体力の現状維持 若干の検出者 現れる	—	なし	なし	なし	全と	なし	なし	合計2カ 月	なし	なし	なし	なし	なし	なし	不明	なし	
野菜は 比較的 良なり 100%	体力の現状維持	—	なし	なし	なし	全と	野菜を採 取し野菜 に加う	なし	合計2カ 月位	なし	なし	なし	なし	なし	全と	なし		

表2

地域(II) 沿海州地区第4收容所(地名 スーチマン)

期	収容人員	住				級	所	
		構造(本)	暖房	照明	その他		種類(内容)	時間
昭和20年 9月より 昭和21年 3月まで	1000	二段装置 非常に狭し 不十分	バチカ80%電修 理 窓一種 防寒装置なし	ランプ 但し油灯及 給せず	—	千島より各 自携行せし にフキヤ、 良好	炭坑地と作 業道踏躰算 ならびに炭 坑作業に従事 す	8 月 及 10 月 付 付
3月より 8月まで	1200	炭坑炭層住 宅以外に食 堂(兼成)お よび洗面所 を使用す	全	全	—	全	主力は炭坑 地と作業及 び坑内作業 に変わる 弱者は管内 作業	全
9月より 12月まで	1000	依然炭層 二段装置	バチカ修理 す 冷房なし	電球使用 若干 ランプ 残灯部	—	全	10月頃迄弱 者で細編成 煉瓦工場 展習に従事 す	全
昭和22年 1月より 3月まで	1000	室内寒く作 業低下す 二段装置	寒きため各 人体力低下 す 冷房( 野菜)使用す	全	—	一部運品 支給あり 概して良好	全	全
4月より 12月まで	約700	夏季宿舍改 造4月より 食電使用開 始さる	防寒施設整 う	全	窓ガラス を二倍に 増加す	千島より携 行せしもの にフキヤと 共に悪くなる	炭坑作業を 除く 弱者編成し煉瓦 製造、農耕作 業に1回位出た (一部ののみ)	中の管内作業 は残り煉瓦造 り及農耕 作業は計画的 に甲隊弱者 の已分 休養の ためと 行す
昭和22年 1月 より 以降	500	冬、狭し 二段装置	全	全	全	全	炭坑作業を 除く 弱者編成4月頃 より煉瓦造り 及農耕を 行す	1月より4月頃 までは管内 作業は 休養中 5月頃より 煉瓦造り 及農耕 に参る

7月17日 百三三元 小野田 正信

森林地帯 工場

種別	回数(入浴)	金銭給与の有無	食糧		衛生		健康(病)の状況 受診者の数	炭害(衰弱)の発生状況		
			米	野菜	魚	肉		油	時 期	衰弱の数
坑内 作業	10日に1回 11月まで (10~70%位)	なし	米 約100	野菜 約350g	魚 400g 肉 50g 油 50g	干野菜 800g 茶 1.5g	12月中旬より11月 旬に到る間250 名に達す(下廻 設置後激減)	12月中旬	100名外	13名 但し病院 死亡は不明
全	3交代制の現 場は週1度休 ま他は10日 に1度 展習は 2週間に1 度有り	なし	野菜 約100	米 約430g	魚 150g 肉 50g 油 50g	干野菜 800g 茶 1.5g	漸時体力消 耗す	展習と 共に疲 復す	40名	全
全	小隊長の み月50ル 一フル支給 さる	なし	米 約450g	全	魚 150g 肉 50g 油 50g	干野菜 800g 茶 1.5g	21年10月より %給与のため 体力急激に感 下す	雨の寒 さと平 行す	150名	全
全	小隊長に て坑内に 働く者一 部支給を 受く	なし	米 約450g	全	魚 150g 肉 50g 油 50g	干野菜 800g 茶 1.5g	体力全く消耗 し最低位を示 す	1月頃 より 2月頃 まで	350名	6名 但し病 院で多 数死亡
全	1連軍の命で 文化部公出来 月2回位と演 習内浴場完成 2-3日に1 回入浴す	なし	米 約100	野菜 約440 約330	魚 150g 肉 50g 油 動物性 6.6g	全	給与向上、弱 者駆出のため 衛生設備向上 す	初期	なし	なし
全	坑内作業及地 上作業 に従事する者 ハルマに 支給を受く	なし	米 100	野菜 約450 約350	魚 150g 肉 50g 油 動物性 6.6g	全	所長の駆出 共にさし出 向す	なし	ハルマ (駆入時)	なし



附表3

地域(II) 5地区 第305收容所 (地名 ハビロフスク)

7月31日

なまえ 無量井 一二

森林地帯 工場

時期	収容人員	居住				被服	労働	衛生(入浴)	食糧(供給)	食糧				一般の健康(作務) 受診者の数	米 茶 炭 調 料 各 品 類	時 期	患者の数	死亡者の数			
		構造(広さ)	暖房・浴	照 明	その他					種類(件数)	時間(夜間中の)	在室(ハビロフスク)	種類						パン	魚類 野菜	
昭和20年 10月から 昭和21年 2月まで	500	占有気密 1人3立方 米	薪ペーチカ	炬燵	被服 減量場 り	秋期 冬服 越冬 ミーパー ワークキ 防寒帽	除雪 伐採 運 築	主として 重労働	8時間 その他小 休と昼食 後1時間	入浴 1週1回 耐安 行	なし	あり	大豆粉 麦	黒パン	塩魚 干鰯	茶 日本製茶 燻製茶	体力減少しつ つあり 脚気患者(1 名位)	1月頃 から新 増	0.2%	なし	
3月から 8月まで	498	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	土工 搬 築 伐 採	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	主として 高粱	全 上	牛羊肉 塩干魚(鰯) 鱈	冷凍西洋 薯 キヤベツ 少薯	消耗増大	増大	0.5%	なし	
9月から 12月まで	520	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	鉄道 工 築	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	茶(コト)	全 上	全 上	10%	なし	
昭和22年 1月から 3月まで	430	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	5%	なし
4月から 12月まで	5-8月 350 8-10月 50	充 分	全 上	全 上	全 上	全 上	農耕 運 築	主として 中又は軽 労働	全 上	入浴 1週1回 耐安 自設衛 生	1 回	全 上	主として 大豆 高粱	全 上	全 上	全 上	体力や、恢復	なし	なし	なし	
昭和23年 1月 より 以降	507名所 400	占有気密 1人3.5立 方米	全 上	電 灯	前收容所 に比し都 会地帯 大抵可	全 上	伐採 運 築	主として 重又は中 労働	全 上	全 上	3 回	1月~3月 あり 4月以降 なし	粟 包米 高粱	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	若干	5%	なし

森林地帯、工場地帯、農場地帯の別

(森林地帯)

調査	一般の健康(作)状況 受診者の数		栄養失調の発生状況		環血病予防の処置			方法 その他	野菜の全容		環血病の発生状況		夜盲症の発生状況		脚気(時・数)	黄疽・肺炎・赤痢等 の発生状況	その他
	時期	患者の数	死亡者の数	リン(錠)の給与	松葉エキス(強制的)	野菜(禁止?)	時期		患者の数	死亡者の数	時期	患者の数	時期	患者の数			
豊能 豊能	体力減少しつ つあり 肺炎患者(1 名位)	1月頃 から新 増	0.2%	なし	なし	強制的	なし	-	松葉エキス 野いちご 山葱	1月頃よ り漸増	0.1%軽 症	なし	なし	なし	0.1%	黄疽 2名 栄養不足 1名 肺炎 9名 休む 1日 20~30名	死亡者 計2名 栄養不足 1名 頭部挫創 1名 一般患者 1日 20~30名
豊能 アベツ	消耗増大	増大	0.5%	なし	なし	全と	全と	-	野いちご 山葱とう 松葉エキス 野いちご 山葱	増大	0.2%軽 症	なし	5月より 増大	8%	0.1%	黄疽 8名 肺炎 8名 赤痢 10名 休む 1日 20名	死亡者なし 赤痢は生水飲用 によつて発生す
豊能 アベツ	全と	全と	10%	なし	なし	全と	指定許可	-	松葉エキス	漸減	0.1%軽 症	なし	漸減	3%	なし	黄疽 3名 肺炎 2名 休む 20名	死亡者なし (黄疽給与増加可 比に量も又増 量せらる)
豊能	やや好調	やや減	5%	なし	なし	全と	なし	-	全と	減少	0.05%	なし	全と	1%	なし	肺炎 8名 休む 1日 25名	11月より2月迄 重症3名代動勢 死亡者なきも実 質かなり疲弊す (鉄橋作業)
豊能	体力やや回復	なし	なし	なし	なし	全と	不遂 (農耕充分)	-	全と	なし	なし	なし	なし	なし	なし	重症患者なし 休む 1日 2名	小規模に於ける野 菜の供給充分な り
豊能	やや好調	若干	5%	なし	なし	全と	指定許可	-	全と	軽症のみ	数人	なし	なし	なし	なし	重症患者 なし 肺炎 5名 休む 1日平均 15名	環境良にして大 衆よく自覚し良 好なり

71表4

地域(Ⅱ) 第1地区 第532 收容所 (アール ソコワニ) 昭和 23年 7月 23日 なまえ 阿部 睦男																		森林地帯 農場地			
時期	収容人員	居住				被服	労働			慰安 (入浴)	金銭給与の有無	食糧				一般の健康(特力) 疫診者の数	栄養失調の発 生時期	患者の数	死亡者		
		構造(広サ)	暖房・冷房	照明	その他		種類(内容)	時間(短時間)	休日・休その他			加減(給与)	穀類	パン	魚類その他					野菜・茶	
昭和20年 9月 より 21年 2月 まで	約1000名 第1地区 第532分所	場付床二階 ソ連式 丸太製 6×30m <sup>2</sup> 350名	厳寒時 暖炉 (薪) 2ツ	代用 石油ランプ 4ツ	窓・ドア一重 ガラスの代 りに厚布を 張る	千鳥より防 寒服を持参 せよため 防寒長靴 も除き良 好	鉄道建設 一部は 運 築	重	日曜・祝 日あり 1ルマ高し	殆どなし 週に一回 入浴	正	加減されず	350~400 g	350g	150g	但冬期は種類 は豊富にあり て依りて 550g 茶 3g	寒さに成水手 のみなり衰弱し て来たり 70~80名	12月 1月 2月	5 4 6 (毎入院)	2	
21年 3月 より 8月 まで	約700名 第1地区 第532分所	全上	全上	全上	全上	お・おぬ 良好	全上	重	全上 や休みあり 1ルマ重し	各中隊で月 に1回演習 会 入浴は全 上	将校あり 兵なし	全上	400g	350g	150g	650g 茶 3g	衰弱者が出た が夏季には次 第によく戻つ た 60~65名	-	-	なし	
9月 より 12月 まで	約600名 第1地区 第533分所	全上 12×30m <sup>2</sup> 約200名	全上 4ツ	全上 8ツ	窓一重 但しガラス を張る ドア二重	全上	運 築 薪 切	中	日曜日は 大休 1ルマ中等	全上 入浴は10 日に1回	全上	全上	400g	350g	150g	650g 茶 3g	不健康の者多 く特力よく なかつた 45名前後	-	-	なし	
昭和22年 1月 より 3月 まで	約500名 第1地区 第533分所	全上 約170名	全上	ほや付キ 石油ランプ 6ツ	全上	全上	除 雪 石炭積 貨車下し	中	全前 1ルマ中等	全上	全上	全上	450g	350g	150g	650g 茶 3g	特力弱つて 来たり 45名前後	1月 2月 3月	1 2 1 (毎入院)	1	
4月 より 12月 まで	約450名 第1地区 第533分所	全上 約150名	全上	全上	窓二重 (ガラス) 入口全上	防寒長靴 等新品多 外套その他 良好となる	運 築 石炭積 (機関車) 貨車下し 農 場	中	日曜・祝 祭日は必ず 休んだ 1ルマ中等	後半演習団 と作り月2 月や3 入浴は週 1回	将校あり 兵作業 100%以 上あり	基本定量 が決まり 全員同一	450g	350g	150g 夏期は魚 類をやつて 3倍にする	700g 茶 3g	次第に夏季で あるが回復が 遅れた 35名前後	-	-	なし	
昭和23年 1月 より 以降	約500名 第1地区 第533分所	全上 約170名	全上	3月までは 全上 以後は 電灯4ツ	全上	全上	運 築 プラットフォーム 建設(1ルマ) 飲 農 雑	中	全前	全上 入浴10日 に1回	全上	全上	450g	350g	150g	700g 茶 3g	健康状態は や、良好と成 つた 45名前後	1月 2月	0 1 (毎入院)	なし	

附 4 右

森林地帯、農場地帯、工業地帯の別 (森林地帯)

健康(件)概 診者の数	栄養失調の発生		瘰癧病予防の処置方法				野菜の含有 期 間	瘰癧病の発生状況			赤盲症の発生		脚氣の発生 (時数)	黄痘、肺炎、発疹等の 発生および死亡の状況	その他	
	時期	患者の数	死亡者の数	ビタミンCの給与	ビタミンA(強制的)	野菜(禁止?)		その他	時期(月-日)	患者の数	死亡者の数	時期				患者の数
に及ぶ予 り衰弱し 来氏 ~80名	12月 1月 2月	5 4 6 (毎入院)	2	なし	なし	—	アスカ ル ビ ン 素 ( 注 射 用 )  なし	2月中	—	—	—	1月半	1名	1月2名 2月2名	黄痘約6名 内1名入院 肺炎6名発生 内2名入院死亡	発疹47ス の他の傳染病 の発生を呈す
弱者が出た 夏季には次 によく戻つ ~65名	—	—	なし	なし	1人約100 g 3日に 1回強制的	許可され 炊事に使 用した	なし	3月 4月 5月 6月	4月末 5月半 6月始	2 3 4	なし なし なし	6月始	1名	4月4名 5月3名 6月4名	黄痘約3名 内2名入院 肺炎4名発生 内1名入院死亡	森林性腸脊髓 膜炎にて1名 入院、死亡せ り
健康の者多 くはよく かつた 5名前後	—	—	なし	少量 (45g)	1人約100 g 2日に1 回	—	なし	—	—	—	—	—	—	10月4名 11月4名 12月3名	黄痘4名 内1名入院死亡 肺炎なし	傳染病の発生 を呈す
力が弱つて た 5名前後	1月 2月 3月	1 2 1 (毎入院)	1	毎月約150g を重症に 与えた	1人約100 g 毎日強 制的に吞 み込んだ	—	毎月約200 g 重症者 に	3月中	3月末	2	なし	2月 3月	2名	3月4名	黄痘2名 入院死亡なし 肺炎10名 内入院死亡2名	全上
夏季で は回復が 速く 5名前後	—	—	なし	少量 (50g)	1人約100 g 2日に1 回	許可され 炊事に使 用した	—	4月 5月 6月	4月 5月 6月	3 2 1	なし なし なし	—	—	4月2名 5月1名 8月4名 9月3名	黄痘6名 内3名入院 1名死亡 肺炎3名 内入院死亡1名	全上
健康な 、良好と な 5名前後	1月 2月	0 1 (毎入院)	なし	毎月約150 g 重症の み	1人約100 g 毎日	—	毎月約100 g 重症者の み	3月 4月 5月	—	—	—	2月始	1名	2月2名 3月3名 4月2名	黄痘5名 内2名入院 1名死亡 肺炎5名 内入院4名	全上





森 地帯、工場地帯、農場地帯の別 (工場地帯)

一般の病原(動物)状況 疫学者の観	赤痢症の発生状況			瘧疾予防の措置				野菜の含有 時期	瘧疾の発生状況			赤痢症の発生状況		瘧疾の発生 (時・数)	黄痘、肺炎、赤痢、 発生および死亡状況	その他
	時期	患者の数	死亡者の数	ビタ(C 錠剤)	松葉エキス(同前)	野草(禁止?)	その他		時期(月・日)	患者の数	死亡者の数	時期	患者の数			
健康状態 中 患者数 10%	1月	150名	10名	なし	なし	異常なし 禁止	キヤベツ 漬物少量 配給あり	12月より 1月の終 りまで	なし	なし	なし	2月	2名	なし	黄痘 50名 死亡なし	
不良 45%	4月 5月	180名	20名位	全上	強制的	禁止	-	少量が あり	全上	全上	全上	4月 5月	50名	全上	肺炎 死亡 3名	
全上 50%	5月 より 8月 まで	260名	なし	野菜代用 として月 2回位	全上	許可	-	-	全上	全上	全上	なし	なし	9月末頃 約10名 あり	10月頃より 肺炎患者 40名位	
全上 全上	なし	なし	全上	全上	全上	全上	-	2月より 3月まで 代用粉	全上	全上	全上	全上	全上	なし	不明	
全上 全上	全上	全上	全上	全上	全上	全上	-	野菜のほ いときには 大豆粉 または 粉物にて代 用せられた り	6月 より 12月 まで	30%	全上	全上	全上	全上	黄痘 70名位	
全上 全上	全上	全上	全上	全上	なし	なし	-	全上	2月 3月 1月はなし	50%	全上	全上	全上	2月頃 40名位	なし	



森林地帯・工場地帯・農場地帯の別 (工場地帯)

別の健康(体)状況 受診者の数	炭谷炭調症の発生状況			増血病予防の別種				脚氣の発生 時期	環血病の発生状況			梅毒の発生状況		肺病・肺炎・結核等の 発生による死亡の状況	その他	
	時期	患者の数	死亡者数	ビタミンC錠給与	松葉エキス(野山)	野草(等上?)	その他		時期(月)	患者の数	死亡者数	時期	患者の数			
12月頃より著しく悪くなる 保身隊員数増、損傷多し 200名	11月以降	180	40	僅少の補給あり	記述せず	野草なし	-	11月より 2月まで	12月 1月 2月	10~15	2~3	12月 1月 2月	5名	11月頃より 数が増大	12月頃より黄道流行す、11月にも重症に到らす 死亡者あり	痔瘻多し 神経痛多発す
や、可。夏季に向い、保身隊員減少、6月以降著しく減 60名	上期に引き続き	80	20	全と	全と	野草採取競争にて調理す他に各人自給	-	3月 4月	3月 4月	5~10	1~2	3月 4月	2~3名	-	5月頃迄黄道流行す	下痢多し、6月頃野草喫食による一時的な精神病5~6名発生す
よし 全と	引き続き	10	なし	なし	全と	必要を認めず	-	11月 12月	-	なし	なし	10月 11月	1名	-	10月末よりハダク腸チフス流行、10名を突破す 死亡者なし	-
よし、損傷激減 50名	なし	なし	全と	全と	全と	全と	-	1月 2月 3月	2月 3月	4~5	全と	-	なし	-	チフス2月末迄続く 死亡者なし	-
健康工場作業のため外傷患者増大 40名	全と	全と	全と	全と	全と	草と、小片欠一部を採取	-	-	-	なし	全と	-	なし	岩塩を自給で食し夏に向つて増大す	7.8月、急性肺炎20名内外続発す 死亡者数3名	野草喫食による一時的な精神病2~3名発生す
健康 全と	全と	全と	全と	全と	全と	野草なし	-	-	-	全と	全と	-	なし	-	-	大腸炎蔓延の虞あり天と大争に到らす